

『臨床研究トレーニングに 組み入れ可能な 能動的・研究倫理学習 プログラム』の開発

令和4年

3月10日 (木) 14時00分～16時30分 (開場:13時30分)

フクラシア東京ステーション 会議室A

(朝日生命大手町ビル6階/JR東京駅直結、東京駅日本橋口より徒歩1分)

開催方式: Web (Zoom) と会場でのハイブリット開催

参加方法: 以下QRコードよりお申し込みください ※定員に達し次第、申し込みを終了させていただきます。

定員 会場20名、Web100名

コメンテータ

札野 順 早稲田大学 大学総合研究センター教授/金沢工業大学 名誉教授
田代 志門 東北大学 大学院文学研究科 准教授

司会

植田 真一郎 琉球大学 大学院医学研究科 臨床薬理学 教授

プログラム

- ◎能動的・研究倫理学習プログラム概要
- ◎一般医師を対象とした研究公正に関する調査
- ◎看護研究における研究公正
- ◎一般病院医師が研究公正を学習する意義
- 他

研究開発代表者

森本 剛 兵庫医科大学 臨床疫学 教授

お問い合わせ先/兵庫医科大学 臨床疫学
メール: resws@hyo-med.ac.jp

主催: 兵庫医科大学 臨床疫学

お申し込みはこちらから▶



<https://crprogram.net/symposium/>

研究開発の概要

研究公正・倫理の教育は、多くの医育機関・医療機関で実施されていますが、臨床研究において、様々な課題が残っています。

我々は一つの解決策として、能動的な学習プログラムを開発しました。

現在の研究公正・倫理教育の課題

- 講義形式中心で、義務的、受動的な受講
- 実際の臨床研究実施との乖離
- 教育者と学習者に溝
- 時代によって変遷する研究公正・倫理

臨床研究トレーニング

研究のフェーズに従って、講義・ハンズオン・仮想研究を行う。

- 臨床的課題の設定
- 研究デザイン
- 研究計画書作成
- 研究運営計画策定
- データマネジメント
- 統計解析
- 図表作成
- 論文発表

組み入れて実施

能動的研究倫理学習プログラムの開発

- 臨床研究に即したリアルな事例検討で当事者意識を持つことができる
- 研究公正・倫理のスキルを、臨床研究技能の要素の一つとする
- 学習者が次の教育者としてプログラムを実施できるようマニュアル化
- 新しい課題にも対応できるセンスを身につける

過去の臨床研究トレーニングにおける検討事例

【事例設定背景】

- 研究テーマ：薬剤Aの予防効果の検討
- 研究デザイン：多施設後ろ向きコホート研究

【事例ストーリー】

解析段階になって、ある参加施設で、本薬剤の権威であり講演も多い施設長の方針で、予後が良さそうな患者さんに限定して、投与されていたことが判明した。

【検討ポイント】

- 問題点は何か？
- どのように対応すべきか？
- 今後の予防策は？

臨床研究トレーニングにおける、とあるグループが企画した仮想研究

仮想研究の実施中にこのグループに発生した仮想事案

